



# すずらん 第46号

発行日：平成25年1月1日

発行元：社会福祉法人すずらんの会 理事長 大長義信

編集：広報委員会

〒252-0328 相模原市南区麻溝台7-1-7 TEL: 042-749-8881

URL: <http://www.suzuran.or.jp>

## 新しい年に思う

理事長 大長 義信

明けましておめでとうございます。

旧年中は地域の皆さまをはじめ、多くの方々から一方ならぬご支援やご協力を賜り、お陰をもちまして法人の事業が大過なく運営出来ました事をご報告致しますとともに、深甚なる感謝を申し上げます。

相模原の地域に根付いて20有余年、障害者福祉の向上に微力を尽くして参りましたが、まだまだ私たちに求められる社会福祉法人としての役割は大きく、幅広いものがあります。今年も丁寧にこれに responding する努力を怠らない様にと心掛けて参ります。

2011年のあの大震災以来、世相も人々の心の様も大き

く変わって来てしまったように感じられます。

私たち社会福祉法人に対する見方も一段と厳しいものになって来ました。

地域における法人の存在意義を厳しく問われることが多くなって参りました。私たちは、法人創設以来障害のある人達への就労支援を大きな柱とし、近年は障害の心配のある児童の療育や高齢者介護の分野にも事業の幅を広げて来ましたが、まだまだ地域の福祉向上のためには努力しなければならないと感じています。

私たちが近い将来、地域の重要な福祉資源として認められるようになる日を夢見て、事業運営に励んで参りたいと存じます。

どうぞ本年も変わらぬご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

## 新年のご挨拶

総合施設長 松屋 直人

新年あけましておめでとうございます。

平成18年の障害者自立支援法の施行から、新体系への移行等その対応に追われて来ましたが、今年からは本格的な事業の拡充等前向きな取り組みにチャレンジしていきたいと思っています。

まず、今年の4月から、ワークショップ・SUNの環境整備と工賃向上を目的として、SUNの定員を35名から20名に変更し、新たに定員20名の事業所を立ち上げる計画です。新たな事業所の候補物件は、床面積がSUNの約2倍あることから、将来的には定員を40名程度まで増員していきたいと考えています。また、平成26年4月に

運営開始予定の新規多機能型事業所につきましても、土地の購入及び工事の開始等具体的な動きを開始する計画です。設備面で不自由をお掛けしている「すずらんの家」及び「ばれっと」の環境改善と、短期入所（定員2名）を併設するグループホーム（定員12名）を設置し、地域生活支援の拡充を図る計画です。

さて、「障害者総合支援法」が、いよいよ今年の4月1日から施行されることとなります。基本的には、現在の「障害者自立支援法」の名称変更ということで、いささか拍子抜けした気分です。

今年も多忙な1年になりそうですが、皆様から必要とされるサービスを、職員一同一丸となってしっかりと提供していく所存ですので、今後とも皆様からのご支援とご鞭撻を宜しくお願い致します。

## 受賞おめでとうございます

### 神奈川県社会福祉協議会会長表彰を受賞

(永年勤続功労者として)



福田 立夫 副理事長

父の後を受けて理事になり、何年かの空白後、また理事を経験させていただいております。この間、民生委員なども経験し、福祉について多少の知識を得たものが法人運営に役立てばと思っております。

これからも、当法人が利用者のため、またサポートする職員の方々のため、健全な法人運営に努力してまいりたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願い致します。ありがとうございました。

川島 光義 監事



「多年にわたり社会福祉に精励しその向上に寄与」ということで、このたび県社会福祉協議会会長から表彰状をいただきました。私は、十数年前、友人であります現すずらんの会副理事長の福田さんの推薦により、監事を引き受けました。

1～2期で退任しようと考えていましたが、理事長や職員への福祉に対する情熱、利用者、保護者の立場などを考え鋭意支援を重ねて参りました。しかし表彰については、忝怩たる思いであります。すずらんの会は大長理事長の理念と経営手腕、職員への使命感などと一体化し発展を続けております。また、地域社会について貢献度も高いものがあります。今後も堅実な歩みを期待しています。私は高齢、人生最後の表彰と、関係皆様に感謝申し上げ、有難くお受けいたしました。



# 特集『つながり』

今年度の特集記事は、法人の方針にもある、地域交流・地域貢献について、各事業所の取り組みの経緯、現状、今後の方向性を掲載していきます。

～地域社会の一員として～

## 大学生によるソーシャルワーク（社会福祉援助技術）実習

グリーンハウスは地域貢献として大学生のソーシャルワーク実習の受け入れをしています。今年度、法政大学から実習生を受け入れ授業で学んだソーシャルワークの技術理論を実際の現場で体験することを目的に24日間、利用者の日中活動を通して実習を行いました。今回は、実習生の齋藤さんから見たグリーンハウスの地域交流についてを、ご紹介いたします。



### 実習を通して見た地域との交流について

齋藤 和貴さん 法政大学現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 在学中

私は、今回の実習の中で、主にパン班の外販から地域との交流を学んだ。

まず、今回の私の実習施設である「グリーンハウス」は、市立総合体育館や公園、美術大学等の近くに立地している。また、村富線（県道507号線）の付近に立地している。そのため私は、周辺道路の通行人や通行車両が多く、地域資源という点で、比較的恵まれた環境にある施設という印象を持った。

しかし、施設自体は、体育館や県道方面から見ると、わかりにくい場所に位置している。また、施設の所在は知っているという地域の人々の中にも、その施設ではどのような人がどのようなことを行っているのかということまでは知らない人もいよう。私は、施設に対する地域の人々の理解を得るためには、何が必要なかを模索した。私はこうした中で、利用者及び職員が、積極的に地域交流を進めていくことの大切さに気づいた。私がそれに気づききっかけとなった出来事が、美術大学へパンの外販に行った時にあった。パンを買いに来たあるお客さんが私に、「このスワンベーカーリーは、十条にあるお店と一緒にのかしら？」と尋ねてきた。どうやらこのお客さんは、スワンベーカーリーの成り立ち等についての知識は持っていたのだが、相模原市にお店が存在していることを知らない、といった様子であった。そこで私は、そのお客さんに、スワンベーカーリー相模原店の位置情報を教えた。すると、お客さんは「それは知らなかった！今度行ってみます。」と言ってくださった。前述の通り、グリーンハウスは決して目立つ場所に位置している施設とは言えないが、この出来事から、利用者及び職員が地域を周り、地域交流を進めていくことで、地域の人々の理解や協力が得られるのだと気がついた。また、地域のスーパーや公的施設、一般企業等を外販先として利用するなど、地域資源の活用から地域交流を生み出す点も、私の学びとなった。

最後に、私が今回の実習で経験したことを、様々なところで発信していくことにより、私も、施設の地域交流に貢献できるのではないと思う。また、法人の余暇支援活動にボランティアとして参加するなど、私自身も地域の一員として利用者や職員、法人、施設との交流を続けていこうと思う。今後も、実習での経験を活かしながら、さらなる学びへと繋げていきたい。

## 近隣の中学生による職場体験実習

すずらの家 飯島 智春

毎年近隣中学校から数名が、「職場体験」の場としてすずらの家を利用しています。体験実習に来る生徒達は、体験する場所を見つけ、事前にその職場について自主学習を行い、職場に連絡をして日程調整なども行っているようです。体験実習に来るのは中学二年生です。

職場体験 桑原 翔さん 相模原市立若草中学校2年 在学中

3日間、私の「職場体験」をお引き受けいただきありがとうございます。すずらの家を実際に体験させていただいたり、貴重なお話を聞かせていただいたりするなど、大変充実した時間を過ごすことができました。おかげさますずらの家について深く知ることができました。この貴重な体験を、これからの学校生活に活かせるように努力していきたいと思っています。

実習の様子ですが、初めのうちは何をしたらいいのか分からず、ただただ利用者に圧倒されていることが多いと感じます。しばらく利用者とお話すると話をしようとする姿が見られたり、想像していたこととは違っても積極的に関わることが出来ない人もあったりと二分しますが、福祉の場での体験を通して、すずらの家のことを知ってもらうことは地域交流の一端を担うものと思っています。

体験実習を終えて数日後の朝、出勤した利用者から「この間来ていた実習生に会ったから、'おはよう'っていたら挨拶してくれた。」と嬉しそうに報告がありました。

今後より多くの方に、すずらの家のことをもっと知ってもらえるように、地域交流の場を多く持っていきたく思います。

## さまざまなイベントで地域交流

イベント委員会 塩原 翼

### フェスタすずらん

10月27日（土）に、すずらの会のお祭り『フェスタすずらん2012』が開催されました。法人ではフェスタすずらんに向けて、ステージパフォーマンスや模擬店、バザーを中心に、職員一同地域の皆様楽しんでいただけたイベントを目指して準備を進めてきました。当日は天候にも恵まれ、600名を超える方が来場されました。今回は2階のスペースに地域（溝上地区自治会）の方の作品を展示するコーナーを設けたり、法人の事業所紹介も楽しく判り易い展示に工夫したりと、地域の方々との交流に力を入れてきました。

また、バザーを楽しみに朝から並んでくださる方もおり、地域の皆様の中にフェスタすずらんが少しずつ根付いてきている事を実感する事ができました。ステージ上では、相模龍王太鼓、ウクレレマイスターズ、シャルル石黒、米陸軍軍楽隊の皆さんが、素晴らしいパフォーマンスを披露してくださり、会場全体が盛り上がりました。すずらの会の余暇サークルである“サウンドタイム”の皆さんも、日頃の練習の成果をステージ上で発揮してくれました。模擬店やバザー会場も多くの方で賑わい、足を運んでいただいた皆様楽しんでいただけたのではないかと考えています。

来年度も、多くの方にご参加いただける内容を企画し、地域の皆様との交流の機会を作りたいと思いますので、宜しくお願い致します。



### ピュアハート作品展

11月1日（木）～11月8日（木）

の期間で『Pure Heart 作品展』が行われました。昨年度に引き続き、相模原市民健康文化センターのふれあい広場をお借りし、利用者の皆さんが出品した作品を展示しました。

作品は、絵画や切り絵、写真、陶芸品、手芸品、書、工作など様々なものが集まり、幅広いジャンルの作品展となりました。初日より健康文化センターにいらした方々が作品の前で足を止めてくださる様子が見られ、皆さんの作品が多くの方の目にとまり、楽しんでいただけたのではないかと感じています。また、地域の皆様が多く訪れる健康文化センターで作品展を開催できたことにより、これまですずらの会の事を知らなかった方にも、法人の取り組みを知っていただくきっかけになったのではないかと感じています。



## ワークセンターやまと地域活動・地域交流について

ワークセンターやまと 高橋 光千夜

ワークセンターやまとでは、開所当初より地域交流を活動の柱としてきました。地域で何かお役に立てることはないかと当時の自治会長に相談に行き、近隣の特別養護老人ホーム「晃風園」をご紹介いただきました。私達の思いをご理解いただいた和田園長はじめ施設の職員や入居者の方々に見守られ、土曜稼働の一環として月1回清掃作業のボランティア活動をしています。主に立位時使用の手すりや居室内外の窓拭きをしています。特に外側から網戸を拭くと、雑巾は真っ黒になりますが、拭き終えた後はピカピカに綺麗になるので、皆一所懸命雑巾がけをしています。職員の皆さんや入居者の方から「ありがとう」と声をかけていただく嬉しさで利用者の顔も輝きます。和田園長からは季節折々にお気づかいをいただき感謝しております。

また地域の方との交流を目的にパソコン訓練の講師を大和市のシニアボランティアの方をお願いしています。現在は年4回、大和市の学習センターに集合し、ワードやエクセルの使い方を教えていただいております。講師の方が道で利用者に出会うと見えなくなるまで見守りをしていただき「きちんと歩道を歩いていましたよ。」と職員に伝えていただくこともあります。つかず離れず目をかけていただいている事が分かり、とてもうれしくなりました。

他にも大和市で開催している清掃作業に年1回参加させていただいております。大和駅近辺の清掃地域を数か所に区切り、利用者、職員、市内商店、企業有志の方々、市の担当の方が1つの班になり行動します。市の担当の方が優しく見守って下さり、利用者、職員とも安心して清掃に取り組みむことができます。ビニール袋いっぱいになったゴミを持って、集合場所に戻る利用者の顔はとても満足気でした。

利用者自身が必要とされる喜びを感じ、地域で生きている事を実感できる活動やイベントにこれからも参加していきたいと思っています。





(株)テミルが取り組んでいる事業「テミルプロジェクト」に、すずらんの家『就労継続支援B型事業』(製菓)が参加します。テミルプロジェクトは、特に障害のある人に「やってみるか!」と思える環境を提供し、夢を持つきっかけを作りたいという思いから始まりました。このプロジェクトの取り組みは、自由が丘の有名菓子店「モンサンクレール」の辻ロシェフなど、有名なパティシエが開発したレシピを基に、障害のある方がスイーツの製造を担当し、人気絵本作家やイラストレーターによるパッケージデザインで商品を包み販売、収益を確保し障害者の工賃向上を目指すプロジェクトです。

すずらんの家はテミルプロジェクトに参加することで様々な分野のプロの力を借りて、新しい商品の開発はもちろん、技術の向上を目指し、現商品の品質向上などにも取り組んでいきます。

お客様に喜んでいただける品質の高い商品を作り、売上を伸ばして利用者の工賃アップに繋げていきたいと思えます。

クッキー・ケーキ 焼き菓子の製造&販売 すずらんの家

営業時間：月～金 AM9:00～PM5:00(土・日・祝日休)

〒252-0325 相模原市南区新磯野 2-11-5 1F TEL：042-747-2418 FAX：042-747-3805



## 委員会報告

## 内部研修報告

研修委員会 矢嶋 正貴

『授産活動を活発化させる方策を企業から学ぼう』

講師：元(株)ニッパツハーモニー厚木営業所所長 津中 幸廣 様

『障害者雇用をすすめる上で求められる支援者・家族の役割』

講師：アフラック・ハートフルサービス(株)代表取締役社長 綾部 眞琴 様

すずらんの会では、日頃から“働く”ことを支援の1つの柱として取り組んでいます。それは、企業への就労を活発にすすめていくことや施設内での作業で高工賃を目指すことです。これらを実践していく中で、さらに職員の意識改革等を目的に、研修委員会と就労支援委員会が共催して「就労支援に関わる研修」を企画し、内部研修として実施しました。また、地域との関わりをよりすすめるために、今回の内部研修を広く地域の関係機関等に広報し参加者を募りました。

第1回目の研修は9月13日松が丘園にて(参加者60名)『授産活動を活発化させる方策を企業から学ぼう』と題して、工賃向上に関連した講演会を実施しました。講師は元(株)ニッパツハーモニー厚木営業所所長津中様にお願ひし、企業が取り入れている生産管理の方法や作業に従事する人へのメンタルヘルスについてお話しをいただきました。施設の作業支援で役立つ実践的な内容が好評でした。

第2回目は10月3日相模原総合体育館にて(参加者76名)『障害者雇用をすすめる上で求められる支援者・家族の役割』という内容でアフラック・ハートフルサービス(株)代表取締役社長綾部様より講演をしていただきました。企業就労をすすめる上で、育成機関や家庭の役割は大変重要ですが、その為にも実際に雇入れをしている企業を知ることは重要なことであり、大変有意義な研修会となりました。この研修では、市内外の就労支援機関を始め、学校、企業、家族等多くの方が参加されました。

参加者数からもわかるように、就労支援に対しての関心が高いことがわかります。これからも、地域の皆さんと一緒に就労支援をもり立てて、さらに活性化するような取り組みを法人あげておこなっていききたいと思います。皆さまからも今後取り上げて欲しい就労支援のテーマ等ありましたら、ご意見をいただきたいと思います。

## 相模原市社会福祉功労者表彰を受賞しました

(永年にわたって社会福祉に貢献したことによる表彰)

松屋 直人(総合施設長・ワークショップ・フレンド施設長)

佐々木 雅子(ワークショップ・SUN課長)

## ご支援有難うございます

【寄付】

・すずらんの会父母会 様

【寄贈】

・ガデリウス・メディカル(株) 様

・女子美術大学 様

## 編集後記

昨年は特集「つながり」をテーマに、地域交流・地域貢献をさまざまな形で実現し、お伝えすることができました。今年も法人の役割を念頭におき、利用者が多様な形で社会参加が出来る様に努力して参りたいと思えます。